

普及センターだより

常陸太田地域農業改良普及センター

〒313-0013 常陸太田市山下町4119 TEL 0294-80-3340~2 FAX 0294-80-3348
高萩駐在 TEL 0293-22-3061 FAX 0293-24-0210

第 **68** 号



(左より武藤翔平さん、本多竜馬さん、本多孝文さん)

シャインマスカット

果実品評会で

常陸太田市の本多竜馬さんが

最優秀賞と食味賞のダブル受賞!!



令和五年九月二八日、茨城県ぶどう連合会青年部主催のシャインマスカット果実品評会が開催されました。県内各産地から計三〇点が出品され、ぶどう生産者代表や園芸研究所研究員、農業総合センター専門技術指導員が粒の大きさや房型などの外観、糖度、食味・肉質などを審査しました。

審査の結果、常陸太田市の本多竜馬さんが最優秀賞と食味賞、本多孝文さんが優秀賞、武藤翔平さんが外観賞を受賞しました。

本多竜馬さんは、「昨年に引き続き最優秀賞をいただき、とても光栄です。今年は糖度の上がりを中心に心配していましたが、歯切れがよく、味がのつたぶどうをつくることができました。これもひとえに家族やぶどう園スタッフの支えがあつて良い結果が残せたと感謝しています。」と受賞の喜びを語りました。

受賞した品は週末に東京・銀座にある県のアンテナショップ「IBARAKI sense」にて展示・販売されました。

高温・干ばつに伴う 農作物の 被害軽減対策



施設野菜

施設トマトにおける高温障害の事例と対策を紹介します。

高温による代表的な症状として着果不良があります。これは高温により花粉がダメージを受けることが原因です。もう一つ、高温により生育が盛んな部分へのカルシウムの移動が上手くいかず、トマトの花落ち部分が黒くなる尻腐症があります。いずれも収量に影響を及ぼします。

そこで、ハウス内の気温上昇を抑制する必要があります。具体的には次のような対策が挙げられます。

ハウスのビニルへの遮光ネット設置や塗布タイプの遮光資材の活用、循環扇や通路かん水といった対策があります。また、ハウスの屋根に散水チューブを設置し、水をかけ流す、屋根散水冷却技術もあります。また、カルシウム剤の葉面散布も有効です。

これらの方法を組み合わせ、効率的にハウス内気温を低下させ、高温障害を防ぎましょう。

水稲

高温により斑点米カメムシ類の発生が増加する可能性があるため、発生状況に応じて二回防除を検討します。出穂期に多発生が見られる場合は出穂期〜穂揃い期に一回、その一〇日程後にもカメムシ(幼虫)が多い時は二回目の防除を行います。防除にあたっては、収穫前日数などの農薬使用基準に十分注意してください。

幼穂形成期〜登熟期の高温による白未熟粒の発生を軽減するため、用水が十分確保できるほ場では、出穂期から三〇日間は落水せず、間断かんがいを行います。最低気温が二五度を上回る夜が続く場合は、日中は落水し、夜間にかけて流しを行うとより効果的です。また、湛水状態が続かないよう、暗きよ施工田では減水深が二〇mm程度になるよう水甲を調節するなど排水に努め、間断かんがいを行います。

出穂後一〇日間が高温で経過した場合、収穫が遅れると胴割粒の発生が大幅に増加するため、特に適期収穫に努めます。収穫適期は帯緑率一〇%程度の時から、早・中生品種が五日間、晩生品種で一〇日間です。

果樹

干ばつ傾向にある地域においては、用水の確保に努め、敷わら、敷草等により、土壌水分の蒸発を極力抑制しつつ、適宜かん水を実施します。かん水に当たっては、漏水、目詰まりを防ぐために事前点検を行います。また、干ばつ期には草刈りを実施し、水分競合を防ぎましょう。施設の場合、妻面・側面または天窗を開放するとともに、循環扇等を利用し室内温度を均一にすることが大切です。

干ばつ時には、ハダニ類が発生しやすくなります。発生動向に十分注意し、発生初期からの薬剤防除を実施するようにしましょう。薬剤散布は高温を避け、早朝や夕方など涼しい時間帯に行いましょう。

ブドウでは、果粒軟化期(ベレーゾン期)前の果房は、日焼け症、縮果症などの生理障害が発生しやすいので、果房への傘かけ(紙製の傘)が有効です。また、ブドウの根は浅いので、株元の根域への少量・多回数のかん水が適しています。晴れた日は、午前中に毎日かん水するのが望ましいです。

花き

干ばつ害を受けやすいところでは、事前に深耕して有機物(完熟堆肥等)を十分に施用し、保水力や根張りをよくしておきます。

定植直後や生育初期のものは、かん水回数が多くても、一回のかん水量が少ないと根が地表面近くに多くなり、干害を受けやすくなるため、一回のかん水量は深さ一〇cm以上に達するようにかん水します。また、乾燥するとハダニ類が発生しやすくなるので、早期発見・早期防除を徹底しましょう。

特に露地花きでは、敷わらやマルチにより地温上昇を抑制し、土壌水分保持を図ります。

施設栽培では、遮光率三〇〜五〇%の資材で遮光し、室温上昇を抑制します。また、換気扇の利用も効果的です。

花木等の樹木類では、かん水すると地表面近くに根を張り、より干ばつ害を受けやすくなるため、次の降雨までかん水を継続する必要があります。

高温時に収穫する場合は、出来るだけ気温の低い早朝に行い、低温貯蔵庫や鮮度保持剤を使用して、鮮度保持に努めましょう。

ナシ、リンゴの火傷病について

中国で発生した火傷病(図)の国内侵入を防ぐため、中国産花粉の輸入が停止されています。

中国産花粉を使用していた方は、計画的な自家採取により花粉を確保しましょう。また、補助的にミツバチ導入も有効です。

春先の自家採取に向け、早めに剪定作業を終えるようにしましょう。



まれに火傷病による葉の枯れや果実の変色、黒化、葉の脱落、枝の枯死などが発生する。図：農林水産省パンフレット

トマトキバガの発生について

令和五年一〇月、県内



三地点において、本県で未発生であるトマトキバガの発生が確認されました。現在のところ、県内では本種による農作物被害は確認されていません。本種は令和三年以降、国内合計三七道府県で確認されています。

形態の特徴として、成虫は、翅を閉じた静止時で体長五〜七mmであり、前翅は灰褐色の地色に黒色

斑が散在します(図一)。終齢幼虫は、体長約八mm、体色は淡緑色〜淡赤色です。

生態の特徴として、成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多いです。幼虫は土中や葉の表面で蛹化します。

被害の特徴として、トマトでは、葉内部や果実内部に幼虫が潜り込むことによる食害があります(図二)。防除対策としては、捕殺や登録薬剤の散布、被害株の抜き取り及び密閉処理が挙げられます。

トマトキバガの発生が疑われた場合は、速やかに当普及センターまでご連絡ください。



図一 植物防疫所原図
トマトキバガ



図二 植物防疫所原図
トマト被害果

ネギ軟腐病について

症状

葉鞘軟白部や根が淡褐色になって腐敗し、生育不良になります。その後、軟白部全体が軟化腐敗して強い悪臭を放ち、地際部から折れて倒伏し、腐敗消失します(図)。初夏から初秋にかけて土壌湿度が高い状態、特に数日間ほ場が滞水する状態が続くと発生しやすくなります。



被害株の症状

対策

①夏季の高温期に追肥や土寄せ作業をすると発病しやすくなるので控えてください。

②雨水がたまりやすいほ場は明きよの施工、耕盤破碎等によりほ場の排水に努めてください。

③発病後の防除効果は低いので、予防的な防除を重点的に行ってください。発病が予想される場合には、土寄せ前に地際部を中心に適用薬剤を散布してください。

台風被害を受けた水田の今後の対策について

九月八日の台風二三号により、多くの水田が浸水被害を受けました。

浸水した水田では、流された稲わらが偏って堆積していることがあります。そのまま鋤きこんでしまうと、春先に有害なガスが発生し、植えたばかりの稲の根が傷んで生育不良となる原因になります。堆積した稲わらは水田外に持ち出すか、水田全体に散らしてください。

また、稲わらとともに木片や鉄くずなどのガラクタが流入している場合があります。機械の破損や怪我の原因となるので注意してください。

浸水の影響で、畦畔が崩れていないか確認してください。崩れや穴があると、漏水して生育や除草剤の効きが悪くなります。

稲わらと一緒に雑草の種が流れ込んでいる場合があります。いつもと異なる雑草が発生することもあるため、雑草をよく確認し、除草剤を使用する場合は雑草に応じた剤の選択や、早めの防除を心がけてください。



二日間行われた感謝祭には生憎の天候に関わらず、多くのお客さんが来場しました。当日は直売所での野菜や加工品の販売はもちろん、催し物等が行われ大盛況の様子でした。

二〇周年という節目を迎えた鶴喜鶴喜ですが、今後ますますの発展が期待されます。

**鶴喜鶴喜は
二〇周年を迎えました**

十王物産センター鶴喜鶴喜(日立市)は、昨年七月に二〇周年を迎え、記念感謝祭を開催しました。

農業学園開催中!!

普及センターでは、新規就農者並びに農業後継者に対し、営農をする上で役立つ知識及び技術の基礎を学んでもらうとともに、相互の交流を図り仲間づくりを促す「農業学園」を開催しています。

今年度は、これまでに「先進農業者による講話(開講式と同時開催)」、「水稻講座」、「果樹講座」を実施しました。

受講生からは、「販路確保の話がとてもためになった。」、「有機農業への取り組みが参考になった。」、「販路や販売面で工夫している点がとても分かりやすかった。」など好評をいただいております。

ご興味がある方は、当普及センターまで御連絡ください。



果樹講座の様子

女性農業者交流会を開催しました

常陸太田地域女性農業士会が、7月に女性農業者交流会として、常陸太田市内のカフェ雑貨店で講師を招き「和紙ガーランド作り」を行いました。

ワークショップ終了後には、参加者全員でお互いの営農状況について情報交換を行いました。

日頃の農作業や生活について終始会話が弾み、女性農業者同士の交流が深まったようです。



電子版農業茨城について

農業茨城は、これまで雑誌形態で74年間発行し、皆様に様々な農業に関する情報を提供してきましたが、令和5年4月よりポータルサイトに形を変え、ホームページ上で公開しております。どなたでも無料で見ることができます。

記事は、アドレス「<https://nouiba.jp>」または、左側のQRコードから読むことができます。



茨城県県北農林事務所 公式X(旧ツイッター)で情報発信!

茨城県県北農林事務所ではX(旧ツイッター)にて、県北地域でのイベントやお知らせなどの情報を発信しています。左側のQRコードからアクセスし、フォローをお願いします。

